

五戸総合病院研修を終えて

大阪公立大学医学部附属病院 二年次研修医 山本大

令和6年度7月に五戸総合病院で地域医療研修をさせていただきました、大阪公立大学医学部附属病院の山本大です。まずは安藤院長を始め、私の地域医療研修のためにご尽力いただいた五戸総合病院の方々に感謝申し上げます。

青森に到着し業務が始まるまでは、全く新しいことが待っている楽しみもありましたが、まだ医者になって一年と少しの自分に何かできるのかという不安が大きなものでした。

しかし、入院患者の検査、治療、ICなどは基本的に全て任せていただける安藤院長の方針もあり、今までは患者の病気をどう治すかを中心に目を向けていましたが、患者をどのように生活復帰してもらうかから逆算して考えるようになりました。

それを実現するには患者の社会背景を知ることが重要であり、患者がどのように過ごしていたかを尋ねていく上で、自ずと患者との信頼関係を築くことができるようになり、元気になって退院していく姿を見るたびに不安は無くなっていき、自信を持てるようになりました。この五戸町での診療で、今まで自分に足りていなかった実践での経験とそれに伴う責任感を得ることができ、これから自分が医師としてどのような存在になりたいかをより明確にすることができたと思います。

また、CVポート増設やPICC挿入などの手技の面でも、まずは研修医がトライする、それをアドバイスしながら基本的には最後まで完遂させるという安藤院長の指導により、今までよりも自分のできる手技の幅が大きく広がりました。また、普段も急に実践の場が訪れても出来るように準備をすることは心がけていましたが、五戸総合病院では自分が必要だと思う処置を院長に伝えて実際に行うという、処置を行うことを決定する段階から実践することができたため、今までよりも深く考え、患者さんにかかる負担と検査・処置で得られるメリットを測ることができるようになりました。

また今まで経験したことのない仕事内容として、訪問診療がありました。訪問診療では医療にアクセスするのが難しい患者さんを定期的に訪問しました。療養上の不安を抱えながら生活を送っている患者さんの訪問診療をする時は、一度の訪問診療で悩みや身体の不調を聞き出すことが重要だと感じました。

仕事だけではなく、休日は同じく五戸総合病院に研修に来ていた研修医で十和田湖でのサイクリングや東北旅行に出かけたり、仕事終わりに車で八戸まで出かけて食事をしたりと

青森を存分に楽しませていただくことができました。特に五戸町で食べた馬肉は今までに食べたことがないぐらいとても美味しかったです。

この 1 ヶ月間で地域医療を学ぶだけでなく、医者として成長ができたと実感しています。この 1 ヶ月の研修で得たことを忘れずにこれからの医師としての人生を進んでいきたいと
思います。また、機会があれば五戸町を再度訪れ、今回の御恩をお返しすることができれば
嬉しく思います。

1 ヶ月間大変お世話になりありがとうございました。